

		免疫チェックポイント阻害薬 副作用対応連携シート			
副作用	主な自覚症状	検査項目	ペーシング (投与開始時) ○実施	モニタリングの目安	専門医へのコンサルトのタイミング
間質性肺炎	発熱、空咳、息苦しい、息切れ	胸部X線	○	投与時	左記の自覚症状発現の場合、左記検査項目の異常が認められた場合には、直ちに相談ください。
		胸部CT	○	疑い時	
内分泌障害 内分泌障害	甲状腺機能低下症：身体がだるい、体重増加、徐脈、便秘、食欲低下など 甲状旁腺機能亢進症：汗をかきやすい、体重が減る、甲状旁腺のはれ、胸がドキドキする、手の震え、不眠、発熱、下痢、振戦、食欲低下 副腎機能不全：身体がだるい、意識がもうれる、考えがまとまらない、嘔吐、むくみかす、食欲不振、低血圧、脱力感 副甲状腺機能低下症：手足の筋肉の痙攣、手足口の周りなどのしびれ	TSH・FT3・FT4	○	月1回	【甲状腺】 症状出現（倦怠感や動悸など）、TSH・FT3・FT4に異常が認められた際、TSH/セファタ抗体、抗チログロブリン抗体、抗TPO抗体を1回測定し、自己抗体陽性で症状発現時はコンサルト 【副腎】 ACTH・コルチゾールを測定した際、コルチゾール低値の場合にコンサルト
		抗チログロブリン抗体 抗TPO抗体 TSH/セファタ抗体 IPTH	○	疑い時	
		ACTH コルチゾール	○	月1回	
		排便回数	○	投与時	
		腹部CT 大腸内視鏡検査	-	疑い時	
大腸炎 重度の下痢	下痢（軟便）もしくは通常よりも頻回の便通、血便もしくは黒クタル便で粘着質の便、重度の腹部痛もしくは圧痛	CPK	○	投与時	Grade2以上の下痢、便回数の増加が認められた場合（ペーシングと比較×4～6回/日以上の上の排便回数増加） 腹痛・下血・便失禁・発熱に特に注意
		ACHR抗体	-	疑い時	
重症筋無力症 筋炎	重症筋無力症：上まぶたが下がる、物がだぶって見える、飲み込みにくい、しゃべりにくい、呼吸困難 筋炎：身体にかが入れない、発熱、飲み込みにくい、息苦しい、発疹、筋肉の痛み	HbA1c	○	月1回	目が下がってくる（眼瞼下垂） 飲み込みにくい（嚥下障害） 症状発現時 あるいは、CPK1000IU/L以上の場合にコンサルト
		グリコアルブミン 血糖 検尿（尿ケトン体） Cペプチド	○ ○ ○	疑い時 投与時 疑い時	
1型糖尿病	糖尿病：身体がだるい、体重減少、のどが渇く、水を多く飲む、尿の量が増える 糖尿病性ケトアシドーシス：意識の低下、悪心、嘔吐、腹痛	AST ALT γ-GTP ALP T-Bil D-Bil LDH	○	投与時	左記の自覚症状の発現、又はGrade2以上の肝機能障害が認められた場合にコンサルト
		HBs抗体・HBe抗体 HCV抗体	○	感染歴がある方は3か月毎にDNA量を測定	
皮膚障害	湿疹、かゆみ	PT APTT フィブリノーゲン 心筋トロポニンT NTproBNP Dダイマー FDP 心エコー 心電図	○	投与時	Grade2以上の皮膚障害
肝障害	倦怠感、黄疸、嘔吐、嘔気、食欲不振、そう痒感	AST ALT γ-GTP ALP T-Bil D-Bil LDH	○	投与時	左記の自覚症状の発現、又はGrade2以上の肝機能障害が認められた場合にコンサルト
心血管障害	心不全、心筋炎、心房細動、深部静脈血栓	心エコー	○	疑い時	左記の自覚症状の発現、又は検査値の異常時にコンサルト
眼障害	充血、霧視、羞明、眼痛	心エコー	○	投与時	左記の自覚症状が発現した場合にコンサルト
その他		Na K Cl Ca P TP ALB UA AMY BUN Cr 血球算定 (CBC) J/ケルカイン	○	投与時	

※検査オーダーは検査センター、統合センターを作成しますので、そちらより使用してください

死亡例が報告されています。早めに専門医へのコンサルトをお願いします